

推進活動会議において提案された取り組み方

< 区外の人を意識した推進活動 >

- ・区内はもちろんのこと、台東区は在勤者、来訪者も多いことから、区外の人を意識した推進活動が重要。
- ・対外的なアピールは不可欠。

< やりたい人がやるという姿勢 >

- ・「いいことはやろう」というスタンス
- ・思いつきでも「これは区にとっていいことではないか」と思ったら、それに賛同する人だけが集まってやるのが大切。
- ・コンクールもイベントも賛同する人だけがやればよいのであって、一律にやろうとするとうまくいなくなる。

< これまでの推進活動の復習 >

- ・既に策定してきた歌や宣言も活かしていない状況をしっかり把握し、どのような推進活動を実施してきたのかを整理し、今後に生かしていく必要がある。
- ・コミュニケーションには、「誰が、何を、誰に、どのような手段を使って、効果をもたせるか」ということが重要であり、確認した上で活動が必要

< 推進活動組織の組成 >

- ・推進委員会などを組織する必要がある。その際、広い分野から参画してもらうことが重要。

< 多様な主体の参画 >

- ・推進活動については、台東区の場合は企業の協力、自治会の協力が不可欠。
- ・人々のセグメンテーションが進んでおり、意向等の傾向がつかめない人をいかに憲章に引き込むかが重要。
その際には、インターネットが重要な情報ツールになる。
- ・台東区の行事・イベントのほか、東京メトロの駅などでもPRできるものを掲示してもらえるような官民一体の取り組みをすすめるべき
- ・区民憲章アンケートでは銀行にも協力していただいた。企業であっても方法によっては協力いただける。
- ・JCや法人会などの団体を集めて、区の主催で区民憲章を語る集いなどを実施してもらう。
- ・各団体の講演会などで、冒頭に説明してもらうなどして啓蒙活動を進めていく。
- ・推進活動に当たっては、地域における町会等組織の階層を意識させないとりくみが大切。
- ・多様な参画を得るためには、まず、区民憲章の内容に共感を持ってもらうことが重要。
そのため、区民周知の第一段階となるパブリックコメントで、参加意識を高める取り組みが重要